添付資料1

みんなのSDGs賞

企業規模：NPO／**業種**：福祉団体／**地域**：全域

「だれもが楽しめる社会へ」
― 病気や障がいのある子どもたちに体験の輪を広げる ―（NPO法人AYA）

取組の概要

「病気や障がいがあることを理由に、文化的・社会的体験をあきらめなくてよい社会の実現」を目指し、スポーツ・芸術・文化の各領域で、子どもたちとそのご家族に向けた体験型イベントを開催。映画上映会、スポーツ観戦会、音楽鑑賞会、プラネタリウム鑑賞会など、誰もが参加できるインクルーシブな社会づくりを推進している。

該当するSDGs目標
（3つまで）

取組を始めた動機・課題

病気や障がいを抱える子どもたちとその家族の体験機会は構造的に限られている。公共施設やイベント会場の環境面や配慮の不足、理解不足から、「体験の格差」という社会的不平等が生じている。この不平等を解消し、「病気や障がいを理由に体験をあきらめなくてよい社会の実現」を目的として、本取組を開始。

解決に向けた具体策と成果

医療的ケアへの対応、家族全員での参加設計、専門職の帯同、安全・安心への配慮といったAYA独自の体制を組み込み、誰もが安心して楽しめる「体験機会」を創出。

取組による定量的な効果

・来場者数:2023年度延べ 312人 → 2024年度延べ 1,334人
・ボランティア数:2023年度 延べ61人 → 2024年度 延べ227人

取組のポイント

神奈川県・市・教育委員会の後援のもと、企業・ボランティアとの連携により、持続可能な共創モデルを構築。

みんなのSDGs賞

企業規模：中小企業／**業種**：製造業／**地域**：県西地域

「作る技術から、治す技術へ」（有限会社津田製作所）

取組の概要

プリント基板の製造を長年続ける中で、メーカーのサービス終了や老朽化により困っているお客様の声に応え、5年ほど前にメンテナンス事業を立ち上げました。今では売上の半分を占める事業となり、廃棄されるはずだった基板を修理・再生することで、資源保護と廃棄物削減に貢献しています。

該当するSDGs目標
（3つまで）

取組を始めた動機・課題

基板の老朽化により、製品の維持が困難になるお客様の声が増加。実は“作るだけでなく、治す力も持っていた”技術者たちの知見を活かし、メンテナンス事業を立ち上げた。技術者の技術力は十分に備わっていたが、社内体制や設備面に課題があり、補助金などを活用して測定器を導入したり、修理体制の強化に取り組んだ。

解決に向けた具体策と成果

技術者の知見を活かし、精度の高い診断と修理を実現した。廃棄予定だった基板の延命を可能にし、現在ではメンテナンス事業が全社売上の約半分を占めている。

取組による定量的な効果

従業員数：2020年4月49名➡2025年4月67名【18名増員】
売上：2020年約3.7千万円➡2025年約6.3千万円【170％UP】

取組のポイント

“作る技術”から“治す技術”への転換・・・製造中心だった体制を見直し、技術者の力を活かして修理・再生にシフト。

神奈川県中小企業診断協会賞

企業規模：中小企業／**業種**：業務用食品卸／**地域**：全域

食品配送から始めるSDGs（東京中央食品株式会社）

取組の概要

① **プラスチック袋年間37万枚（約6t）の削減**
配送コンテナに使用していたビニール袋をお客様の協力を得て全量廃止。強アルカリ電解水による洗浄で衛生面を担保。
② **配送時の保冷用のドライアイス（年間使用量216t）を全廃**
保冷方法をドライアイスから、使い回し可能な高機能保冷剤に変更し、配送品質を上げつつ自社排出のGHG削減を実現

該当するSDGs目標（3つまで）

取組を始めた動機・課題

- 当社は病院・高齢者施設・保育園等のお客様に毎日約100台の車で「食」をご提供する1954年創業の総合食品卸です。
- 衛生的な配送の為のプラスチック袋、保冷の為のドライアイスを創業以来当たり前のように使用してきましたが、その環境負荷の大きさに気づき、配送品質は落とさずにSDGsに資する新たな手法の構築に向け、試行錯誤を繰り返しました。

解決に向けた具体策と成果

- プラ袋廃止後も衛生的な配送を行う為、自社工場で生成する安心・安全な強アルカリ電解水での洗浄を取り入れました。
- ドライアイス以上の効果の保冷剤を発見。食品冷凍庫で凍結させる流れを構築し、追加電力等も発生していません。

取組による定量的な効果

- プラスチック袋37万枚（約6t）、ドライアイス216t（※）の削減

※杉の木およそ15,429本分の二酸化炭素年間吸収量に相当

取組のポイント

- 自社の今までの当たり前に疑問の目を向けてカイゼンする
- SDGsは「品質低下」や「我慢」と必ずしもイコールではない

神奈川県中小企業診断協会賞

企業規模：中小企業／**業種**：製造業／**地域**：県央地域

「相模原発・循環型福祉ビジネスプロジェクト」 ― 環境と福祉と地域がつながるオガチャッカ（株式会社ネットフィールド）

取組の概要

廃ロウソクとおが屑を再利用した着火剤「オガチャッカ」。障害者就労支援と資源循環を目的とした地域発のアップサイクル製品の開発・製造で障がい者が社会に貢献できる仕組みと賃金向上の仕組みをつくった。

該当するSDGs目標（3つまで）

取組を始めた動機・課題

以前から就労支援施設へ商品の製造などを依頼してきたが障がい者の作業効率などの問題などもあり結果的に低い賃金になった。また普段障がい者が行う仕事は単純作業で内職と同様な賃金で作業していることから働き甲斐と収入面を改善したかったから。

解決に向けた具体策と成果

おが屑と廃ロウソクを再利用した「オガチャッカ」を開発し、障がい者が製造から販売まで担う仕組みを構築。働きがいと地域循環型の環境配慮型ビジネスを実現しました。

取組による定量的な効果

年間約200kgの廃ロウソクと約600ﾘｯﾄﾙのおが屑を再資源化。売り上げの85％を施設へ還元。

取組のポイント

社会課題の解決は“善意”ではなく“仕組み”で。環境資源の循環と障がい者の働きがいを両立する持続可能なモデルへ

みんなのSDGs連携賞

不要な衣料品回収イベント
（株式会社BPLab×一般社団法人F・マリノススポーツクラブ）

取組の概要

2023年、かながわSDGsパートナーミーティングにて出会い、不要になった衣料品を再利用・再資源化する取組を連携して行った。横浜F・マリノスが日産スタジアムのホームゲームにて衣料品を回収。回収した衣料品をBPLabがリユースし、リユースできないものは繊維の種類ごとに分けて、横浜F・マリノスが新たな衣料品や雑貨に生まれ変わらせた。

該当するSDGs目標
（3つまで）

取組を始めた動機・課題

ユニフォームなど思い出があるけれど、不要になったものを捨てるのではなく、循環させて新しい形に変えられればというファン、サポーターの思いを形にし、ともに衣料品廃棄の社会問題を解決するために始めた取組です。

解決に向けた具体策と成果

回収した衣料品を再資源化して、そこからの原料を使った新たな衣料品や雑貨を作り、販売しています。
今では横浜F・マリノスの公式グッズとして提供できるところまできました。

取組による定量的な効果

半年間で、衣料品 約600kgの回収をしてリサイクルしました。（年間約1.2トン）

連携のポイント

衣料品の廃棄の社会課題を、スポーツの応援を通して、衣料品回収→循環商品購買によって解決をする取り組み

みんなのSDGs連携賞

児童養護施設の子ども達へキャリア教育の機会を提供
（NPO法人フェアスタートサポート×有限会社グリーンフーズあつみ）

取組の概要

児童養護施設で生活をしている高校生2名に質の高いキャリア教育の機会を提供することができた。
児童養護施設の子ども達にキャリア教育の機会を提供できる当団体と、子ども達の職場見学受入れ等を積極的に担われているグリーンフーズあつみ様との連携により実現。

該当するSDGs目標
（3つまで）

取組を始めた動機・課題

児童養護施設出身者達は、施設で生活をしている頃にキャリア教育の機会が不足していることなどが理由で、質の低い就職活動を行いやすく、結果的にミスマッチによる早期離職が多発。離職を機にワーキングプアへ移行しやすく、貴重な若者達に貧困の連鎖が起きている。

解決に向けた具体策と成果

小中高生の頃に様々な職業に触れることで視野が広がり、はたらくイメージも具体化し、進路選択の質が高まる。

取組による定量的な効果

キャリア教育に恵まれた子ども達は早期離職率が低下する。
当団体の実績:就職後1年内離職率19%（業界平均値43%）

連携のポイント

連携を通じて、どのような社会課題を解決し、地域や次世代に貢献したいのかを双方合意しておくことが大切。